

国語 第4学年 自分なら、どちらを選ぶか 検討会の想定問答

指摘 1：この単元の中心となる学びは何か。

返し：立場を明確にし理由と事例で支える文章である。〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(2)アとB(1)イ・B(1)ウ・B(2)アの学習を、比較表と理由を直した意見文に表れる言葉の選択や説明で捉える。

指摘 2：本時の発問は何を考えさせるのか。

返し：「相手と同じ観点で比べた時も、その理由は成り立ちますか」によって、印象だけの答えから、語句や事実を根拠にした判断へ進ませる。予想として「自分の案にも不便な点があるが、目的には合うと説明できる」が考えられるが、同じ発言を言わせることが目標ではない。B(1)イ・B(1)ウ・B(2)アを評価する。

指摘 3：どんな誤解を予想し、どう手当てするか。

返し：自分に都合のよい観点だけを使うことを予想している。両方の選択肢について同じ観点の情報を集め、弱い点も確かめて立場を書かせる。知識を先に言い渡すだけにせず、比べた例から児童自身が説明を直せるようにする。〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(2)アに関わる支援である。

指摘 4：何を記録に残せば評価できるか。

返し：比較表と理由を直した意見文の途中と仕上げの記録を残す。選んだ語句・判断した理由・修正の根拠が見えるかをB(1)イ・B(1)ウ・B(2)アに照らす。書いた文字数や提出の早さでは評価しない。

指摘 5：意見が異なる場合は、どちらを正解にするか。

返し：語の意味や表記など確かめられる内容は、辞書・本文・公式資料に戻す。感じ方や表現の選択は、対象の言葉と理由が結び付いているかを見る。相手と同じ観点で比べた時も、その理由は成り立ちますかという問いに対する説明を比べ、好みの一致を求めない。

指摘 6：活動に参加しにくい児童への配慮はどうするか。

返し：両方の選択肢について同じ観点の情報を集め、弱い点も確かめて立場を書かせる。さらに、口頭・指さし・短いメモなどで考えを示す方法を用意する。学習指導要領の第3の1(9)を踏まえ、困難さに合わせて方法を変えても、言葉について考える内容は保つ。

指摘 7：主体的に学習に取り組む態度は本時だけで決めるか。

返し：単元の途中の見直しと、その後に使う場面を考えた記録を合わせて判断する。学年の目標(3)を踏まえ、発言が多いことや教師に従うことを、そのまま態度の高い評価にしない。

指摘 8：時数と活動の配当は何を根拠にしたか。

返し：総時数は東京書籍の単元一覧の9時間による。総時数は東京書籍の公式単元一覧による。以下の活動の配分と本時の位置は、本案で提案する授業計画である。活動量を調整する際も、問いに自分で答える場面と、その理由を検討する場面は残す。

指摘 9：端末がなくても実施できるか。

返し：比較表と理由を直した意見文は紙で作成できる。端末を使う場合は、途中と修正後の比較や拡大提示に使う。操作の巧拙はB(1)イ・B(1)ウ・B(2)アの評価に含めず、言葉の内容を見取る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

